

進捗状況の概要 【1ページ以内】

本事業はパイロットPの枠組みから、交流学生数の大幅拡大、移動スキームなどを大きく改善した。それに伴う新たな課題にも柔軟に対応しながら、運営組織、学びの体系などで構想調書に記載していない新たな取り組みにも挑んでいる。計画していた事業目的・内容は順調に達成されている。

■ 学生交流の高度化と再構築

【交流規模の拡大】各大学の各学年の学生定員:最大20名。H28に21名、H29に55名派遣。H29に34名受入。

【海外学習期間の拡大】2セメスター制の採用。移動キャンパスでは、半年毎に中・韓で計2年間現地学習。

【4年間の学びのプロセス】①1回生(派遣前教育)+②③2・3回生(移動キャンパス)+④4回生(派遣後教育)

①派遣前教育(H28～毎年度開講):東アジアについて学ぶCAP専用の演習授業、語学授業、現地実習

②移動キャンパス1周目(H29～毎年度開講)

中国・広東外語外貿大学と韓国・東西大学校への日本学生派遣

現地語による語学授業(中国語・朝鮮語)、3ヵ国学生が共修する演習授業、各国研究、各国人文学科目

広東外語外貿大学と東西大学校からの中国・韓国学生受入

レベル別日本語授業、3ヵ国学生が共修する演習授業、日本研究、本学文学部が開講する人文学科目

③(H30～毎年開講)移動キャンパス2周目

広東外語外貿大学と東西大学校への日本学生派遣、および両大学からの中国・韓国学生受入

語学授業、演習授業、人文学科目、海外インターンシップ

■ 運営体制・教学体制の強化と再構築

【3大学】①3大学合同教職員会議:3大学の教員職員が一堂に会して、プログラムの運営課題を議論する。年1回開催。②3大学教授会:3大学の教学上の連動、内容強化のためにH29に新設。修了要件の設定、連携する授業の開発、学生指導や学習・生活に関する情報共有などを目的とする。③実務者会議:①の議題調整、決定事項の運営調整などを遠隔システムを用いて実施。

【本学】④事務局会議:プログラム運営に関わる教職員が集まり、諸課題の検討、報告、共有などをおこなう。⑤CAP運営委員会:文学部副学部長、東アジア研究学域各専攻主任、国際教学を専門分野とする教員が構成員となり、プログラム運営を定期的に確認し、課題や改善点について議論する。⑥授業担当者会議:CAP専用の授業を担当する教員(非常勤講師を含む)が集まり、各授業の目的・運営方針を協議し、学生の到達度などを共有するため、H29年度に新設。⑦教職員配置:中国・韓国・日本の歴史・文化を専門とする教員を2名増員し、国際的経験が豊富な職員2名が学生対応・留学手続き補助等を担当している。

■ プログラムの検証・評価と質保証

①学習効果・学生の成長に関する研究:学内の専門家チームが、2つの研究課題で科研費を獲得して定点観測し論文化。②上記CAP運営委員会での検証。③学生面談とフィードバック:本学で学ぶ中韓学生、中韓で学ぶ本学学生にグループ、個人面談を実施し、学生の意見・要望をプログラム運営に反映。④ラーニングアグリーメント「プログラムの手引き」作成:4年間の学習体系等を可視化して、学生に配布。

■ キャリア形成と東アジア人文学科目群

①キャリア形成:H28年度より「日本と中国・韓国をつなげる仕事セミナー」を実施。新聞社主催子供キャンプに大学生リーダーとして参加。(※30年度に海外インターンシップを実施)。②東アジア人文学科目群:2セメスター制を採用したことで、各大学の既存科目の履修が可能になり、多様な人文学科目を履修。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成28年度				平成29年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
20人	21人	0人	0人	60人	55人	40人	34人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】**■【体制・組織】3大学教授会(CAP教授会)の創設**

3大学の教学上の統一性と連携体制を強化し、教学内容や学生の学習・成績・生活に関する情報を共有する教員組織として、3大学教授会(CAP教授会)を新たに設置した。プログラムや教学内容を相互に確認し合い、プログラムの育成目標を達成するための情報の交換と課題を協議する場としている。従来からの3大学教職員合同会議、実務者会議と合わせ、テーマや目的によって会議体を分化させ、効率的に相互補完することで、3大学のプログラムの統一化とオリジナリティの尊重が促進され、全体として有機的な再構築が進んだ。また、CAP教授会は3大学CAP関連教員で構成され、プログラム修了の認定主体としての機能を有している。

■【質保証】3大学共通のプログラム修了証発行、修了要件の合意

本プログラムで学ぶ学生については、①4学期の移動キャンパスの修学、②所要単位の修得、③3ヵ国語での卒業論文要旨の提出の3要件を満たすことによって、3大学共通の「プログラム修了証」を発行することに合意した。3ヵ国政府が推進する新たな東アジア国際高等教育プログラムとして、日中韓を架橋する独自の学士学位プログラムへの道標を示すとともに、参加学生の到達すべき目標を明確化した。

■【体制・組織】科目担当者会議の新設・定例化

常設化に伴った科目数およびクラス数の大幅増加により、授業担当者数も増加した。プログラムの育成目標・教学方針の共有、教員＝学生間の緊密な連携維持といった、学びの質保証の観点から科目担当者会議を新設し、定例開催した。H28年度から中国語・朝鮮語合同の科目担当者会議を開催して学生の状況を共有し、効果的かつ効率的な2言語同時学習のための協議を行った。H29年度から中韓学生が受講する「CA日本研究」の担当者も加わり、人文学の専門的・体系的学びを協議・共有した。

■【学生交流】サポーター組織の結成ーピア・ラーニング、ピア・サポート体制の整備ー

本学で学ぶ中韓CAP生の学習・生活サポートを行う学生組織、CAPサポーターを組織した。1回生時にCAP生とともに派遣前教育で学んだ複数のサポートリーダーと、文学部一般学生から募集したサポーター学生をあわせて、15～20名で構成している。歓迎会や各種交流会、ランゲージエクステンションなどの企画・運営をおこなっている。また、日中韓の学生が共修する「CAP演習」を履修し、東アジア人文学の課題についてともに学んでいる。ピア・ラーニング、ピア・サポート体制を整備したのみならず、サポーター学生のなかには中国・韓国への交換留学にチャレンジする学生も現れ、本プログラムの学内への波及、学生の国際的学びの拡散に寄与している。

■【留学準備】イニシエーション実習の実施・単位化

派遣前教育の一環として、夏期休暇中に特別語学研修「中国・韓国イニシエーション実習」(各2週間)を開講し、単位化した。各研修では、広西師範大学(中国・桂林市)、高麗大学校(韓国・ソウル特別市)で中国語・朝鮮語講座、各種文化体験、フィールドワークが行われ、また現地学生チューターとのピア・サポート体制もとられている。半年後に移動キャンパスを迎えるCAP生の語学力を向上させるとともに、現地での生活に触れることで、充実かつ円滑な留學生活を送るための準備を整えた。

■【学生対応】個人・グループ面談の実施と教員間での情報共有

本学で学ぶ中韓CAP生全員(34名)に対して、学期ごとに3～4名のグループに分け、学習・生活面での不安や要望などに関する面談を行った。面談は、日本語による意思疎通の困難を考慮し、中朝言語に精通したCAP専任教員が担当し、必要に応じて学生の母語を介して率直な意思・意見を収集することで、問題の早期発見と解決、プログラムの充実化に生かしている。また、本学CAP生に対しても、派遣前教育、移動キャンパス中に対面・メール・電話等による個別対応のほか、インターネット回線を通じた日常的な個別相談を行い、現地での学びや生活、進路に関する不安解消に努めている。本プログラムのような大規模な学生派遣・受入プログラムの場合、ややもすれば個別の学生に目が届きにくくなるといった懸念が存在するが、あらかじめこうした個人・グループ面談を実施し教員間で共有することで、一人一人の学生の状況に即した指導を可能としている。